機能性

沖縄県産紫カンショのアントシアニンは秋植え作型で高含量となる

成果の特徴

- 沖縄県における紫カンショ栽培では、春植え-秋収穫よりも、秋植え-春収穫の作型でアントシアニン含量が高くなることがわかりました。
- 秋植え紫カンショのパウダーは色が濃く、赤みと青みが強くなる傾向があります。

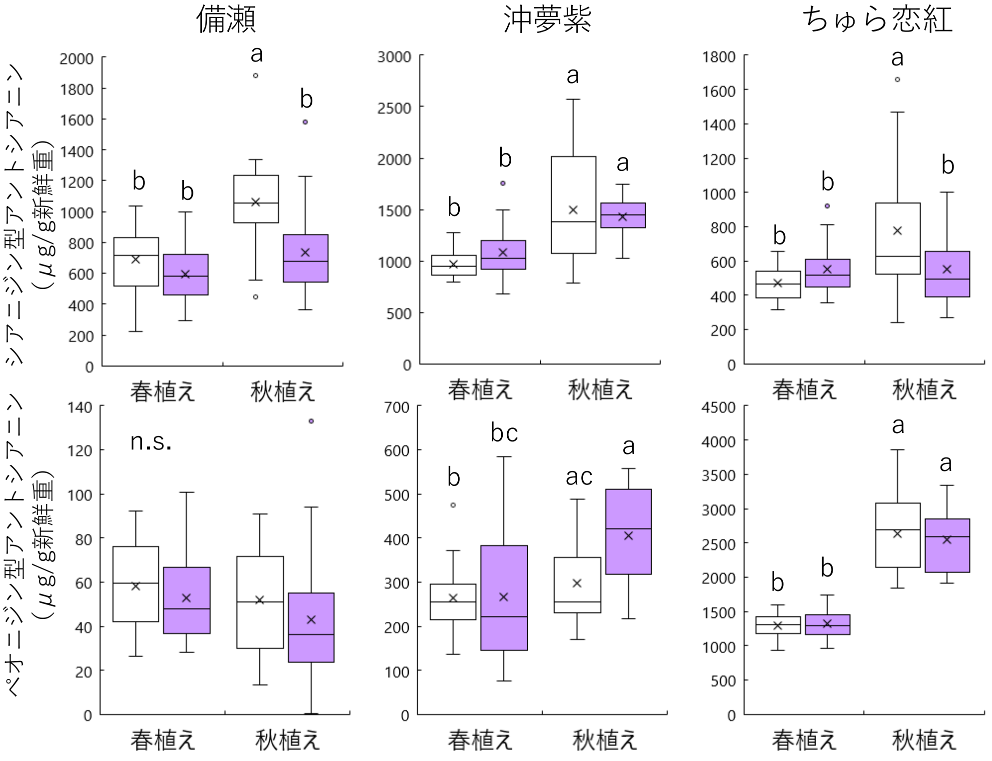

図　作型が異なる紫カンショ中のシアニジン型とペオニジン型アントシアニン量

栽培地：□ 糸満　■ 八重瀬　「備瀬」「沖夢紫」「ちゅら恋紅」の３品種について、2014～2016年に収穫されたカンショの分析結果（各年度６個体ずつ供試）。平均値の多重比較検定はTukey法で行い、同一グラフの異なる英文字間には５％水準で有意差あり。n.s. :有意差なし。箱の上下端は第三四分位と第一四分位、箱中央線は中央値、×は平均値、バーの上下端は最大値と最小値（外れ値除く）、○は外れ値を示す。

成果の活用

沖縄県における紫カンショ栽培の基礎情報として、栽培、加工利用分野での活用が期待されます。

参考文献

沖智之，謝花治，古川（佐藤）麻紀，宮丸直子，境哲文（2018）．*日本作物学会九州支部会報*，**84**，24-30.

本研究はイノベーション創出強化研究推進事業「加工適性や病虫害抵抗性に優れる原料用・加工用カンショ品種の開発」により実施されました。

農研機構
NARO　国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

代表研究者：　西場　洋一
所属：　九州沖縄農業研究センター
作物開発利用研究領域・作物品質グループ